

S B I インシュアランスグループ株式会社

IRTV「中期経営計画の進捗と将来に向けた取り組みについて」（動画）の説明要旨

（2025年7月3日）

掲載先URL： <https://www.sbiig.co.jp/ir/irvideos/index.html>

上記 IR 動画におけるご説明の要旨を以下に記載いたしました。必要に応じて、ご参照くださいますようお願い申し上げます。

（前略）

- ・今回は、当社の連結業績、中期経営計画の進捗、そして、将来に向けた取り組みについてご説明します。

＜連結業績の推移＞ プレゼンテーション資料（以下「資料」） P.4

- ・おかげさまで、増収増益が続いております。
- ・25 年3月期の経常収益は、1,184 億6千3百万円でした。経常収益は、5年で 1.7 倍に増加しており、過去5期の年平均成長率は 10.9%でした。
- ・25 年3月期の経常利益は、94 億7千4百万円でした。5年で 4.0 倍の増加。年平均成長率は 32.1%でした。
- ・25 年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益は、19 億8千8百万円でした。5年で 5.9 倍の増加。年平均成長率は 42.8%でした。

＜中期経営計画の進捗状況＞ 「資料」 P.7

- ・ 当社は、23 年 5 月に策定した中期経営計画（以下「中計」）に基づきまして、純利益ベースで、5 か年で 3.2 倍の利益成長を目指しています。計画を策定した 23 年 5 月に直前期の純利益が 12 億 4 千万円でしたので、これを 5 年後の 28 年 3 月期に 40 億円とする計画です。
- ・ 1 株当たり配当額の目標は、当初、連結配当性向で 30%前後の水準を目指していましたが、今年 5 月 8 日に開催した当社取締役会で配当性向の目標値を 10 ポイント引き上げることとしました。進行期の 26 年 3 月期以降は、連結配当性向 40%程度を目安として配当を行っていきます。
- ・ 純利益の経過実績をご覧ください。25 年 3 月期までが実績で、これまで順調に進捗しています。進行期の 26 年 3 月期は中計の第 3 年度でして、純利益の予想金額は 25 億円です。第 4 年度の 27 年 3 月期を挟み、最終年度の 28 年 3 月期にこれを 40 億円とすることを目標としています。
- ・ 株主の皆さまへの配当は、目標配当性向を基準に行いますので、原則として、会社の利益成長に応じて毎年増やしていきます。当社は、23 年 3 月期に初めて配当を行い、その金額は 10 円でした。これを、18 円、23 円と増配しています。26 年 3 月期は目標配当性向の引き上げも踏まえ、40 円の配当を予想しています。
- ・ 中計の利益目標の達成とこの目標配当性向を踏まえた配当による利益還元を実現できるよう、引き続き、スピード感のある経営を行っていきます。

＜将来に向けた取り組み ～IFRS の任意適用に向けた準備～＞ 「資料」 P.11

- ・ 最後に、将来に向けた取り組み、IFRS の任意適用に向けた準備についてご説明します。
- ・ 当社は日本の会計基準に基づいた決算開示を行っていますが、当社の親会社である S B I ホールディングス株式会社は国際会計基準（IFRS）に基づいた開示を行っています。
- ・ 保険事業においては、この 2 つの会計基準間の差が大きいことから、当社をご参考情報として、S B I ホールディングスの IFRS に基づく連結業績に含まれている、当社グループの税引前利益を

任意開示しています。

- ・当社グループの経済実態は同じですが、会計基準が違えば、測定される利益の額も違うものとなります。当社が日本基準で測定した税引前利益 20 億円は、S B I ホールディングスの IFRS では 59 億円と、大きな金額に測定されます。
- ・当社は、今後、IFRS の任意適用に向けた準備を行っていきます。28 年 3 月期までに、会計基準の差異分析、会計方針の策定、IFRS 対応システムの構築を始め、各種準備を進めます。
- ・IFRS は、適用開始年度だけでなく、その前期の財務諸表も併せて開示する必要がありますので、29 年 3 月期を比較年度、30 年 3 月期を適用開始年度として、30 年 3 月期の第 1 四半期より、IFRS での決算発表を行っていきます。
- ・当社が IFRS の任意適用に向けた準備を行う理由は、3 点あります。第一に、既に IFRS を任意適用している親会社の S B I ホールディングスと基準を合わせることができること、第二に、IFRS の方が保険事業の状況をより適切に表示できること、そして、第三に、社会的背景として、保険会社を含めて、IFRS を任意適用する会社が増加していることです。
- ・保険業で IFRS を適用、あるいは、今後適用予定とした事例は、資料（P.14）のとおりです。これまでは、IFRS を適用すると、日本基準の他の保険グループとの比較が難しくなるなどの問題もありましたが、今後は IFRS を適用する会社が増加してきますので、そのような問題も解消すると考えています。ご説明は以上です。ご視聴、ありがとうございました。